# 災害ボランティアネット通信

2017年版

NPO法人
災害ボランティアネット
茨城県石河市水海三〇一九
Tel 0280-91-3090
Fax 0280-23-2281
http://saigaivolunteer.net/

## 石巻市立 雄勝小・中学校との6年

２０１１年３月11日、東日本大震災が発生してから６年が経過しました。

大人にとって、６年はあまり長い時間には感じられません。しかし、子どもたち……当時の小中学生たちにとっては、６年という歳月は、とても大きな時間です。

今回の通信では、私たち災害ボランティアネットと縁の深い学校『石巻市立 雄勝小・中学校』について特集を組みました。

当時の写真や、体験記を交えながら、小中学生の６年間を追っていきたいと思います。

震災前の雄勝小学校校舎。2008年

津波で破壊された雄勝小学校

石巻北高校 飯野川校の敷地内に建てられた、 仮設校舎の雄勝小学校。ここには船越小学校の児童も通っている。

雄勝小・中学校は、共に津波で大きな被害を受けた地区にあり、授業ができる状態ではありませんでした。

そこで、高台にある定時制高校・飯野川校舎の一部を借り、授業を行っていたのです。

隣接する仮設住宅での炊き出しには、大勢の子どもたちが集まり、様々な話を聞かせてくれました。

現在住んでいる仮設住宅や、被害の様子、そして「また来てほしい」という言葉も。

石巻北高校 飯野川校。定時制高校のため、昼間は使われていない教室がたくさんあった

２０１１年７月、私たちが支援活動に訪れたのは、石巻北高校飯野川校内の仮設住宅でした。小中学生が多いと聞いていたので、お菓子やジュース、かき氷で、夏祭りのような雰囲気で楽しんでもらおうと考えていました。

その「飯野川校」で授業を受けていたのが、雄勝小学校・雄勝中学校の生徒たちだったのです。

2011年7月 飯野川校仮設住宅にて。カキ氷前に作られた行列

# 小さな変化

２０１１年の夏、ある小学生は、支援スタッフに暴言を吐き続け、おもちゃの飛行機を作っては壊し、作っては壊していました。

またある少女は、スタッフの膝に乗ったまま動かず、離れようとしませんでした。

ワタアメをおいしそうにほおばる子どもたち。
2011年12月の炊き出しにて

そんな子どもたちも、数か月、数年と、ともに活動していくにつれ、少しずつですが表情が和らいでいきました。

それからの炊き出しで、私たちは雄勝小・雄勝中の子どもたちといつも一緒でした。

特に、雄勝中学校の青いジャージはよく目立ち、炊き出しの際にはテーブルのセッティングや、後片付けの清掃なども手伝ってくれました。

雄勝中学校では以前から、伝統芸能「伊達の黒船太鼓」に取り組んでいましたが、津波によってほとんどの和太鼓が使えなくなってしまいました。

そこで、古タイヤにテープを張った「雄勝復興輪（わ）太鼓」を作りあげました。

全国からの支援により、輪太鼓」は打ち続けられ、東京・大阪などの国内だけなく、海外での発表もされました。

「石巻市雄勝」の名前が、大きくとどろいた瞬間でした。

太鼓の練習＆発表風景。暑い夏も寒い冬も、子どもたちは太鼓を叩き続けた。それは雄勝復興のシンボルでもあった

雄勝中学校校舎。卒業式のわずか2時間後に津波に襲われ、半壊した

川向うからの図。体育館が完全に流されてしまっている

飯野川校仮設・追波川仮設などに、多くの雄勝小・中学生の姿が見られた

# 手形の打敷

２０１１年７月の支援活動の際、私たちはある計画を立ち上げていました。それは、

茨城の子どもたちと、雄勝の子どもたちを結ぶものとして、

**「手形の打敷（うちしき）」を つくってみよう**

というものです。

打敷（うちしき）

打敷（うちしき）」とは、重い法要の際に、お内仏などにかけて仏様を荘厳する、三角形の布のことです。

草花や鳥など、様々な模様がありますが、それを茨城と雄勝の子どもたちの手形で作ってみよう、という計画です。

飯野川校仮設住宅に住む子どもたちにお願いして、三角形の白い布地に、一人一人、好きな色の手形を押してもらいました。

色とりどりの手形が押された三角白布は、茨城県に持ち帰られ、8月に開催された夏の子どものつどい」に参加した茨城の子どもたちによって、さらに色とりどりの手形で染められました。

手形で染められた三角白布は、専門業者によって縫製され、見事な打敷となりました。

2013年6月、茨城一組同朋大会でかけられた「打敷」

手形の打敷」は、様々な場所で使われました。

茨城の同朋大会で――
雄勝水浜の法要で――
茨城各地の法要で――

そしてそのたびに尋ねられました。

「この打敷の手形模様は、いったいなんなのですか？」

**「この手形は、雄勝の子どもたちと、茨城の子どもたちが作り上げたものです。**

**手と手を取り合い、助け合うあかしなのです」**

2016年3月11日、三反走仮設集会所での法要にて

2012年3月11日、雄勝水浜の法要にて

２０１７年、雄勝小・中学校に、最終的な統合の動きが起こりました。

２０１３年には飯野川校内に、**雄勝小学校**と**船越小学校**が統合された仮設の校舎が建設されました。その時以来の大きな統合です。

大須小学校の校舎。新校舎ができるまでの1学期間は、4校の児童がここで授業を受けた

**雄勝小学校**
**雄勝中学校**
**大須（おおす）小学校**
**大須中学校**

この四校の旧校舎が廃舎となり、新校舎が建設されるのです。

学校名も**「新）雄勝小学校・雄勝中学校」**となり、大須小・中学校は、雄勝小・中学校と統合されることとなりました。

これまでの、教室を間借りしたり、仮設プレハブの校舎と違い、耐震設計され、プールや武道場なども備えた、素晴らしい未来型の校舎です。

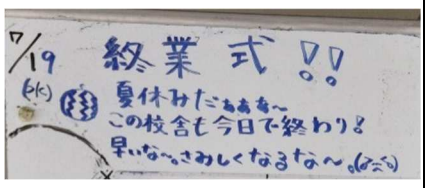
工事が遅れて、完成は２０１７年８月となってしまいましたが、９月の二学期からは、ここでの授業が始まるのです。

雄勝小・中学校の新校舎。2017年9月から、4校の児童の新しい学校となる

同年７月19日、二学期の間だけ、四校児童の校舎として使われた大須小学校で、「終業式 兼 閉校式」が執り行われました。

私たちはその昼食に合わせて、炊き出しを行いましたが、用意したラーメンを食べてくれる中学生のなかに、かつての小学生の顔を見つけ、とてもうれしい気分となりました。

その表情は、旧校舎との別れの寂しさ、新校舎への希望、そして夏休みへの期待があふれ、輝いていました。



## 忘れないでください」

私たちは、被災して苦しんでいる人々のために、世界へこの言葉を投げかけてきました。

被災地から、希望をもって飛び立つ子どもたちが、確かに今いることも。

2011年7月、飯野川校の上空に輝いた、大きな虹。これをともに見た子どもたちは、今、羽ばたこうとしている

# 雄勝中学生のことば

6年前の東日本大震災から今の気持ちは、あんなことがなければと思いました。津波が来なければ、あそこまで被害はなかったと思います。（2年男子）

6年前東日本大震災があり、今でも忘れられません。突然、大きな地震が起き、私はびっくりしました。津波が来た時は、もうダメだと思いましたが、家族と一生懸命逃げて助かったのでよかったです。いつまでも忘れられない出来事でした。（1年女子）

元の雄勝に戻ってほしい。早く復興してほしい。忘れられない。（1年女子）

6年経ちましたが、今、楽しい学校生活を送れているので、震災のことはもう覚えてないです。（1年女子）

震災前の町よりもきれいな町にしたいです。また、人がもっと増えてほしいです。（2年男子）

笑顔が増えてきていると思います。いろいろな人に感謝をして生活していきたいです。（2年女子）

震災のことは気にせず、楽しくやっています。テストで良い点が取れるように頑張ります。（2年男子）

私は最初一人だったのですが、震災があり、同学年の子が増えてとても楽しくなりました。（2年女子）

一年でも早く町が復興することを願っています。（2年男子）

震災からだいぶ復興が進んできたので、これからも復興が進んでいく中で、自分の夢を見つけて頑張っていきたいです。（3年女子）

震災から6年。自分の中で変わったことといえば、家が変わったことです。ですが、その家にも慣れてきました。私は将来ネイリストになりたいです。ネイリストになって自分のお店をもってふるさと雄勝に貢献できるくらいの有名なネイリストになりたいです。雄勝に笑顔をたくさん作りたいです。（3年女子）

一人でも多く雄勝に戻って、皆で雄勝を盛り上げ、震災前と同じような町並みじゃなくても、同じような豊かさが戻ればいいなと思っています。そして、雄勝をこれから知って、多くの人に知ってもらって、より盛り上げられたらと思います。（3年男子）

あの震災からもう6年以上の月日が経ち、復興もだいぶ進んできていても、戻ることのない人がたくさんいます。ですが、大は忘れたときに死ぬ」ので、いつまでも心に残し、その人たちの分も、たくましく堂々と胸張って生きていきたいです。（3年男子）

まだはっきりとした夢は決まっていませんが、しっかり夢を見つけ、一生懸命頑張りたいです。（3年女子）

将来は工業系の仕事に就き、より生活を楽にする。（3年男子）

商業高校に行って、就職するために有利な資格を取って、就職したい。（3年男子）

将来の夢はありませんが、人の手助けができるような仕事に就きたいです。（3年女子）

将来やりたいことはあまりないのですが、私は震災の時に亡くなった友達のことを思い出すと泣きたくなるときもあります。でも、自分にも何か復興のことで手伝えることがあれば進んで手伝っていきたいと思います。（3年女子）

被災地で自分のできることを見つけ、少しでも被災地に役立てるように頑張っていきたいです。（3年男子）

地域の再生をして、またたくさんの人々が来るような町になってほしいです。（3年女子）

# 支援活動の報告

2016年8月から、2017年7月までの活動をまとめてみました。

| 支援活動日 | 活動内容 |
|---|---|
| 8月31日~9月2日 | 石巻市の三反走・追波川 |
| 10月17日~21日 | 熊本地震 支援活動 |
| 11月8日~10日 | 石巻市の追波川・森林公園 |
| 12月9日 | 福島県二本松市同朋幼稚園 |
| 12月13日~15日 | 石巻市の水浜・飯野川 |
| 1月18日～20日 | 石巻市の追波川・三反走 |
| 2月14日～16日 | 石巻市の森林公園・飯野川北校 |
| 3月10日～11日 | 雄勝水浜にて追悼法要 |
| 4月13日～17日 | 熊本地震 支援活動 |
| 5月16日～17日 | 石巻市の追波川・運動公園 |
| 6月6日～7日 | 石巻市の水浜・三反走 |
| 7月19日～20日 | 石巻市の雄勝中学校 |

## 雄勝水浜で　七回忌

2017年3月11日、あの日から七度目の「その時」を迎え、石巻市雄勝町水浜 漁村センター」にて、七回忌法要が営まれました。

仏前には「手形打敷」がかけられ、読経、焼香、法話と続きました。

14時46分には、雄勝病院跡地にて「勿忘（わすれな）の鐘」が、参列者一人一人の手によって鳴らされました。

## 進む？復興住宅計画

家を自主再建できない方々のために、自治体が中心となって作った「復興住宅」が完成しつつあります。

雄勝水浜の復興住宅。2017年から入居が始まったが、他地方ではまだ入居できないところもある

しかしその反面、この6年で築いてきたコミュニティーが、再び破壊される、という事実もあります。

仮設に住む一人のおばあちゃんが、『仲良くなった人がまた、家が出来て出ていってしまって淋しい』と、涙を流しながらお話をして下さいました。

長くなってきた避難生活で、家を自主再建出来ずに、復興住宅を待つ年配の方々の心の淋しさを改めて知りました。

復興住宅への入居は、喜ばしいことですが、すべて丸く収まるわけではありません。

またまだ、苦しんでいる人々はいるのです。

# ＮＰＯ法人　災害ボランティアネット　収支報告書

（期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日）

| | | |
|---|---|---|
| 前年度繰越金 | ¥5,145,105 | |
| 収入総額 | ¥3,480,461 | |
| 支出総額 | ¥5,195,490 | |
| 差引残高 | ¥3,430,076 | 次年度へ繰越 |

## 平成29年現在収支（4月～8月）

| | |
|---|---|
| 前年度繰越金 | ¥3,430,076 |
| 収入総額 | ¥301,964 |
| 支出総額 | ¥1,169,374 |
| 差引残高 | ¥2,562,666 |

## 正会員・賛助会員・寄付者（敬称略・順不同）

（期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日）

藤浪遊、安藤惠子、妙安寺（みむら）、江崎礼子、成澤漁業、富山教区災害復興支援ネットワーク有志、（有）谷駒、黒美人　張富晴、吉田幸代、小島真知子、大里幸三、宮本栄子、幡谷由美、幡谷正裕、桑島かおり、並木会館ゴルフコンペ代表　霜満、藤津裕子、荒川太郎、藤場芳子、東京四組　藤本昌行、三池眞弓、東弘寺、小島康子、通覚寺、徳蔵寺、光円寺　菊池弘昭、乗満寺　遠藤秀賢、正覚寺　山吹照久、飯塚久江、法善寺、山田和江、円鏡寺、法雲寺、梅溪得文、栗原公認会計士事務所　栗原正信、聖徳寺、妙徳寺、水谷豊、宗念寺　担保立子、専勝寺　碧海宏、玉川喜美江、光照寺　池田孝郎、狐野やよい、聴法寺、称念寺、宮地修、Mio 鍼灸整骨院、成満寺　佐伯朋子、増田宣夫、常福寺　八田信雄、恵光寺　勝尾圭三、渡辺ウメ子、渓雲寺、乗願寺　鈴木友好、秋津秀樹、正應寺　佐々木誠正、山中とし子、了因寺　吉岡康弘、光林忠明、斉藤操、岩城芳文、梅寿光殊、近藤龍麿、山中なつ、橋本はる子、梁河文昌、正蔵寺、松本きみ子、横田洋、浄願寺、澤田惠子、光明寺　小林尚樹、光明寺　三浦仁、Studio-Pop hair　樫山達也、光照寺　土肥真、渡辺久美子、常福寺　八田裕正、西岸寺　友松雅英、小島森一、深栖將稔、阿彌陀寺（長須）、専行寺　平松正信、常照寺、永藤松男、存明寺　酒井義一、真宗大谷派　富山教務所、井上知子、伊藤麻子、居酒屋　鴇、浄眞寺　前田義朗、大塚展彦、佑浩寺、真福寺、正行寺、東出睦治、塚嵜洋子、勝願寺　井上証、松野祐、唯信寺、木下彰子、葦原由美子、山中えりか、今泉温資、蓮尾千夏子、塩塚力也、阿部美恵子、島村宣澄、島村武子、宗念寺、橋本コノミ、古賀千代子、古賀美津子、妙安寺（一ノ谷）、多田依子、古賀洋子、玉嵜富仁枝、真行寺、荒川保、蓮原耕児、池田幸裕、石川真樹、坂東性悦、吉弘祐子、了覚寺　加藤慈子、相馬法道、伊藤洋之助、西蓮寺、小代久美子、伊藤賢、鈴木節子、東京教区、草野龍子、トーク＆ライブ in 長岡実行委員会、本誓寺、溝上国喜、（財）全日本仏教会、本明寺、須賀力、伊藤みちる、今泉徳夫、熊本地震復興チャリティーコンペ　荒川太郎、秦秀人、明福寺、中村由美子、狛一

**皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。**
**尚、今後も支援活動を継続していきますので、引き続きお力添えをよろしくお願い申し上げます**

# 福島のこどもたちを三重へプロジェクト

8月18日、三重県桑名別院にて「福島のこどもたちを三重へプロジェクト」に、キッチンカーで出向き、野菜ラーメン百食程を提供させて頂きました。そこで出会った福島県のお母さん達の声を紹介いたします。

お母さんA)

野菜と愛情たっぷりの美味しいラーメン、ご馳走様でした。

現在、地元では放射能を気にするのが変わり者。心配を煽るだけで、お前らが福島の復興を妨げていると言われ、今はひっそり、なるべく目立たぬように、葛藤しながら生活しています。

## 子供を守れる強い母でありたい！

お母さんB)

保養事業は、子供の健康を守るものですが、確実に私たち母親の心の健康に繋がっています。

私たちにご理解ご協力くださる皆さまのお陰で心のバランスが保たれています。

本当に有難うございます。

震災から6年が過ぎても、その傷はまだ癒えているわけではないことを実感する言葉です。

## ご協力のお願い

NPO法人 災害ボランティアネット」は、現在も支援活動を続けており、また活動を支えてくださる、「正会員」「賛助会員」を募集しております。

また、ご寄付も随時受け付けております。左の口座の他にも、「クレジットカード」「コンビニ振込」「ペイジー振込」などの方法で受け付けております。

詳細は、ホームページをご覧ください。左のアドレスにアクセスするか、「災害ボランティアネット」で検索すれば、一番最初に見付かります。

**振込先…　ゆうちょ銀行**
**加入者名…　NPO法人　災害ボランティアネット**
**口座番号…　00110-4-418730**
**ホームページ…**
http://www.saigaivolunteer.net/

## 編集後記

石巻市での支援活動中、母親のいない少年と話をしたことがある。

語り合いの末、母親のことに話が及んだ。身構える私に対し、彼はこともなげに言った。

父ちゃんと離婚して、別のところにいるよ」

彼は、被災地で暮らす、母親のいない少年だった。

だが同時に、今を一生懸命に生きている、ただの少年でもあった。

その時からだろう。自分にとって、石巻市の子どもたちが「被災した子どもたち」ではなく、被災地で生きている子どもたち」となったのは。

彼らはまた、今も一生懸命生きているだろう。

茨城で一生懸命生きている、私のように。

（文責　大内崇久）